

今月の表紙

「武雄川端まつり」

5月18日(日)武雄川端通りで高架開通を祝い「武雄川端まつり」が開催されました。武雄川端通り商店会のみなさん主催でおこなわれ、メインイベントである全国三輪車レースでは、大勢の参加者、応援者の方々などで大盛り上がりでした。

Contents

市民病院の経営改革2~3
セバストボール市のみなさん4~5
たっしゅか教室の募集6~7
参加者のご意見8~10
税務課からのお知らせ11
開発公社保有地の紹介12
まむし抗毒素保有機関13
食育月間・食育募集14
保健連絡協議会だより15
児童手当制度・地域審議会公募委員募集16~17
男女共同参画推進計画18
今月のカレンダー19
環境・農業委員会だより20
介護保険21
水道週間・議会常任委員会、特別委員会22
九州新幹線の取り組み23
叙勲・褒章、児童クラブ指導補助員の募集24
教育委員会委員・景観25
身体障害者更正相談・図書館26~27
狩猟免許28
中山間地域等支払制度29
放流禁止・農振除外申請30~31
まちの話題32
お誕生日おめでとう33
みんなのスポーツ34
インフォメーション35
よかまち武雄をつくる人々36
「武雄みふね会」37

武雄市民病院のこれまでの経過

- H.12.2 武雄市民病院開設
- H.18.2 武雄市民病院経営診断実施
- H.19.11 「武雄市民病院経営改革基本方針」作成
- H.19.11~12 武雄市行政問題専門審議会で検討(4回)
- H.20.1~3 武雄市議会武雄市民病院問題特別委員会で検討(7回)
- H.20.4 医師不足により救急搬送の受入れを休止
- H.20.5 「武雄市民病院改革ビジョン」作成
市民病院の民間移譲を表明

市民の皆様へ

武雄市民病院の経営改革について

~市民医療福祉の維持・向上に向けて~

武雄市民病院の経営改革につきましては、昨年5月庁内に武雄市民病院経営検討委員会を設置し検討を進めるとともに、市議会武雄市民病院問題調査特別委員会や行政問題専門審議会を中心に、真摯な議論がなされてきたところで

す。今般、「これまでの経過」や、「市民病院が直面する喫緊の課題と現状」、「地域に求められる医療機関像」、「経営形態の選択」等を明らかにした「市民病院改革ビジョン」を取りまとめました。

この「市民病院改革ビジョン」は、昨年11月に武雄市民病院経営検討委員会が策定した「地方独立行政法人又は民間移譲を新たな経営形態」とする武雄市民病院経営改革基本方針を踏まえ、市議会武雄市民病院問題調査特別委員会から、「医師不足の現状を踏まえ、民間移譲を踏まえ、救急医療問題、地域医療問題、病院職員の職場確保問題がどう変わるのか」を明示するよう、この市への申入れを念頭においてとりまとめました。

「経営形態の選択」について

では、「医師などの医療スタッフ」が充足し、地域医療機関と連携し、適切な医療サービスを提供することができ、民間医療機関を選択し、経営を移譲することによって地域医療の維持向上を図る必要がある」としてあります。これが、市民のためであると深く信じております。

民間移譲を選択した主な理由は、医師が不足することにより地域の中核的医療機関としての機能を発揮できなくなっている武雄市民病院の現状を踏まえ、地方独立行政法人であっても、これまでどおり引き続き大学の医学部に派遣を要請することが主な医師の招聘手段となり、医師不足問題を抜本的に解決できる効果的な対策とはなり得ず、病院経営は早晩行き詰ることが否定できないこと。

一方、適切な医療サービスを提供することができる民間医療機関に移譲すれば、医師など医療スタッフの確保の面でも、職員のモチベーション向上対策や働きやすい環境づくりを実践しており、民間医療機関としての人材確保のノウハウを活かすことができる

こと。

このことは、医師不足から4月に休止した救急医療についても、人材の確保、人材の育成にノウハウを有する民間医療機関に委ねることで早期に救急医療を再開することができること。

具体的には、できるだけ早く、当該病院から一定数の医師を前倒して派遣させること、そして、救急医療の一部再開を近い将来果たすことを目指したいと考えています。

民間医療法人として経営の柔軟性を活かし、市民の医療ニーズに対応した診療体制の整備が的確、迅速に行えるため、創意工夫、独創性を発揮することが可能となり、医療の質の向上が期待されること、などが主な理由です。

民間移譲に当たっては、「地域に求められる医療機関像」を示した6つの要素

救急医療の実施
地域医療機関との連携
医師等医療スタッフが充実
安定した経営
移転新築が可能
職員の職場を確保
を踏まえ、具体的な医療機関の応募要件を示し、公募によ

るプロポーザル方式で移譲先を決定したいと考えています。移譲先選定に関する今後のスケジュールにつきましては、6月2日に公募要領等を公表して公募を開始し、6月下旬までには移譲先を決定したいと考えています。

なお、移譲先の選定にあたっては、中立・公正を期すため医療関係者、行政、経済界の者から成る「武雄市民病院移譲先選考委員会」を設置して選定し、決定することとなります。

いずれにしても、今の医療を取り巻く環境がそのまま続くことになると、市民の負担となる累積赤字の抜本的な好転は見込めず、また、近い将来に、医師・看護師の確保が難しく武雄市民病院は立ち行かなくなります。そのような危機的な状況に陥る前に、市民医療の維持向上のため、民間移譲を決定いたしました。市民の皆様のご理解のほど、どうぞよろしくお願いたします。

平成20年5月
武雄市長 樋渡 啓祐

お問い合わせ先
企画課 電話(23)9325